

コンクリート新聞

THE CONCRETE SHIMBUN

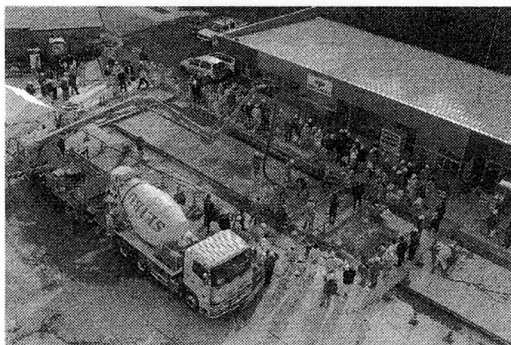


辻理事長

組協 工務部 木部 栃木県生コンクリート工業組合(辻裕司理事長)、栃木県西部生コンクリート協同組合(日光市、渡辺眞幸理事長)は18日、西部生コン今市工場(日光市、平野一昭社長)で、早期交通開放型コンクリート舗装(IDAYPAVE)の施工見学会を開催した。県内外

施工速度に感嘆の声

1 DAY PAVE 115名が参加



施工現場を見学者が取り囲んだ

「コンクリートの啓蒙活動の一環で施工見学会を開催できることをうれしく思う」と述べた。今回の試験施工は3

から生コン関係者のほか、発注者や設計コンサルなど115名が参加した。

理事長は1 DAY PAVEについて「早期交通開放でき、道路補修に最適」とし、発注者に採用を呼びかけた。渡辺理事長は

日に分けて、同社の本社事務所前の185㎡施工した。いずれも版厚は20cmで、生コン使用量は37㎡。地元建設業者の浜屋組が施工した。見学会に先立って14日、17日も60㎡施工しており、14日は人力仕上げ、17、18両日は簡易フィニッシャーを

用いた。簡易フィニッシャーはリース業者から調達した。配合設計は10月に試験練りを3回実施したが、11月に入ってから気温が急激に低下したことから、配合を見直して水セメント比は33・5%とした。

トランドセメント、粗骨材は砂利、石灰石砕石、細骨材は天然砂と石灰石砕砂と、同工場で常備しているものを使用した。見学会では1時間弱で60㎡の施工を終え、発注、設計コンサルらから施工速度の速さに感嘆の声が上がった。

見学会の終わりに平野社長は「1 DAY PAVEは簡易に施工でき、早期に交通開放できる。見学会ではポンプ圧送、簡易フィニッシャーを使用したのが、人力施工も可能だ。これから農林道などで発注してもらえれば幸いだ」と述べた。